

● 新規購入図書紹介

図 書 名	著 者	出 版
地 方 自 治		
逐条国会法 第7巻	昭和54年3月 衆議院事務局(編)	信山社
逐条国会法 第8巻 補巻(追録)	昭和54年3月 衆議院事務局(編)	信山社
自治体議員が知っておくべき新地方公会計の基礎知識 財政マネジメントで人口減少時代を生き抜くために	宮澤正泰	第一法規
そ の 他		
保育園に通えない子どもたち —「無園児」という闇	可知悠子	筑摩書房
新型コロナ対策と自治体財政緊急アンケートから考える	平岡和久 森裕之	自治体研究社
自治体・地域で出来る！ シニアのデジタル化が拓く豊かな未来	沢村香苗・井熊均 木通秀樹	学陽書房



遠路はるばる



春から夏にかけて、暑くなりはじめると、つばめの渡来が気になります。

私の家の玄関先には、5年ぐらい前からつばめが巣を作り、毎年やって来ます。つばめが来ると、頭上に注意して、家に入らなければいけません。そして、フンも落とされます。でも、毎年やって来るつばめにいつか愛着が湧き、今年はいつ来てくれるのかとソワソワします。

つばめは基本的に一度巣を作った場所に、毎年戻って来ると言われています。巣に戻ってきたつばめは、出たり入ったりと忙しそうに巣を作り直し、また雛がかえると、何度も何度も餌を取ってきては雛に与えて子育てします。近くに人間や天敵の鳥などがいると、電線に止まって様子を伺いながら、遠くから巣を見守っている姿は、親鳥の雛への愛情の強さを感じます。親鳥はそうして何回も同じ巣で子育てしますが、寂しいことに巣立った雛は、ほとんど戻ることはないそうです。

ところで、つばめを漢字で書くと「燕」になります。この漢字はつばめが飛ぶ形を表したもので、「くつろぐ」とか「ゆったり」とか「うちとける」といった意味があるそうです。忙しそうに飛び回るつばめからは、とても連想できませんね。

さて、今年私がつばめを最初に見かけた日は4月19日でした。いつもより少し遅いような気がします。季節の変化による現象を記録した「生物季節観測累年表」によると、つばめの初見日は3月初旬から4月下旬までと、その年により約2か月近くの差がありました。意外とまちまちなんですね。こんなに差があるとは思いませんでした。

最近、田んぼや畑が減って、餌となる虫も減ってきているため、つばめは減少傾向にあるそうです。そのためかどうかは分かりませんが、残念ながら、わが家にはまだつばめはやって来てはいません。しかし、近所の巣にはつばめが帰って来ているのを見つけました。わが家にも、同じように子育てに戻って来てくれることを期待して、もう少し待っていたいと思います。

